



学校だより

令和 4年 10月31日
練馬区立田柄第二小学校
校長 岩井 一雄

教育目標 : 元気な子ども ・ 考える子ども ・ 思いやる子ども

人を育てる言葉

副校長 新保 有希子

先月の運動会(体育発表会)には、たくさんの応援をありがとうございました。澄んだ青空の下で、全校の子供たちが校庭に集う光景は久しぶりで、心を打たれました。田二小で初めての徒競走に挑戦した1~3年生。先輩のダイナミックな表現にくぎ付けになっている様子もほほえましかったです。真剣に走る下級生に「がんばれ!」と声援を送る上級生。ダンスの曲に合わせ手拍子をして盛り上げ、一緒に楽しもうとする姿が印象的でした。制限のある中ではありましたが、子供たちが同じ時間を共有できたことに大きな価値があったと思います。当日の運営にご協力いただいたP T Aの皆様にも感謝申し上げます。

翌週行われた道徳地区公開講座では、「思春期の子供たちへの接し方」についての講演が行われ、60名ほどの保護者の方に参加いただきました。ありがとうございます。

人とのつながりの希薄さに淋しさを感じていた昨今、みんなで取り組む楽しさと喜びを実感することができた10月となりました。

大きな行事が終わり、それぞれの学年では次の目標や日々の授業に力を入れています。校内を回ると、授業中の話し合いや様々な掲示物など、多くの「言葉」にあふれています。日本には「言霊」という言葉がありますが、学校で交わされている数々の言葉にも思いが込められています。

例えば教室の掲示物には、教員や子供たちの思いと願いであふれています。

し、授業中は、子供たちの発言がつながり、みんなの考えが広がっている様子も見られます。教員たちは、授業の中でどんな言葉を使って子供たちに問いかけようかと、とても真剣に吟味します。ちょっとした言い回しの違いで、子供たちの思考の方向性が変わっていくことがあるからです。

例えば国語の物語文の学習における問いかけで、「主人公の気持ちを考えよう」と、「主人公はなぜ〇〇したのだろう」では、子供たちの反応と授業の展開が変わります。言葉の重要性や難しさを感じる場面です。

子供たち同士の会話の中でも様々な言葉が交わされています。

「おしゃべりに花が咲く」とはよく言ったもので、とても楽しそうに、にぎやかにしているときもあれば、時にネガティブな言葉が原因でトラブルになることもあります。ある説では「脳は主語を理解できない」ということが言われているようで、自分が誰かに向けて発した言葉を一番聞いているのは自分の脳で、しかしながらその脳は主語を判断できないので、相手に向けていったはずのネガティブな発言も、自らの脳には自分自身に向けての言葉のように感じてしまうらしいのです。つまり相手を批判するような言葉は、自分自身を批判していると脳が勘違いをしてしまうということです。言葉が人間に及ぼす影響力を感じます。

「子どもを伸ばす魔法の11か条~アメリカンインディアンのお母さんの教え」(ドロシー・ロー・ノルト/詩)の中には、こんな文章があります。(一部抜粋)

励ましを受けて育った子は自信をもちます

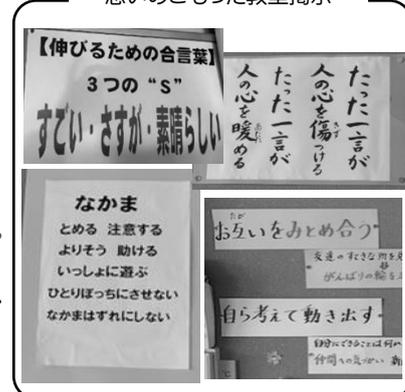
ほめられる中で育った子はいつも感謝することを知ります

他人に認めてもらえる中で育った子は自分を大切にします

半世紀以上前に発表された文章ですが、子供たちが触れる言葉の大切さを改めて考えさせられる内容です。

毎日耳にし目にする言葉は、子供たちの心と頭に刻まれていくのだと思います。そして大人になった時、それがふと蘇り、言葉の意味や込められた思いに気付いてくれることを願います。学校でも家庭でも、温かく前向きな言葉を交わせる環境を作っていきたいものです。

想いのこもった教室掲示



11月の生活目標「係や当番の仕事をしっかりしよう」

学校では、学習や生活の中で、様々な個性の友達と関わり、自分と違う人を認め合いながら活動を行います。そして、そのことによって、少しずつ他者を認められる広い心が育っていきます。子供たちには、係や当番の仕事にしっかり取り組ませていく中で、このような心も育てていきたいと考えています。